

私は平和

(原文は英語)

エスティファノス・メコンネン・アデム (19 歳)

エチオピア・バハレダール市

それは、これまで聞いたことのない奇妙な声だった。最初は嵐かと思ったが、夏に嵐などあるはずがない。するとベッドが揺れ始め、窓やドアも揺れ始めた。地震かもしれないと思ったが、これまでこの村で地震が起きたことはない。地理の授業で地震は地溝帯でしか起きないと学んだが、私の村は地溝帯にはない。その後、爆発音のような音が聞こえ、家はその音に囲まれた。そして、5秒ほど揺れを感じた。私は祖母の家において、そこには私たち2人しかいなかった。私の寝室の隣の部屋にいた祖母の「始まった！」という声が聞こえた。

私の国エチオピアは、2019年11月以降内戦下にある。開戦以降、それまでと生活が全く変わってしまった。私たちは毎日、戦火が私たちの町や村にまで及ぶのではないかと怯えながら生きていた。現在、戦争は終わったが、私たちは平和でも戦争でもない状況にある。平和なことで世界的に知られる国で暮らしていると、恐怖を感じることなく朝出かけ、やりたいことをし、家に帰ってくることの価値に、その平和を失うまで気づかない。しかし、何かの価値を知るために、それを失うまで待ってはいけなと思う。私の場合、平和がどれほど価値のあるものなのかに気づくのが遅すぎた。戦争という体験によって目を覚まされたと言える。しかし、私たちが目覚めるのに、一体いくつの爆発が必要なのだろうか。平和が価値のあるものだとして理解するのに、どれだけの苦しみと失われた命を見ることが必要なのだろうか。人類は嫌というほどの流血、戦争、苦しみを見てきた。それらと引き換えに私たちは何を得たのか。何も得られていない。失われた命は戻らず、残された人々はまだ何か得るものがあるかのように戦い続けている。

以前の私が誰かに自分の価値観は何かと聞かれたら、達成感や野望、倫理、家族、友情と答えていただろう。私たち人類は、平和を価値として認めていないからこそ、平和を維持することができないのだと思う。今は世界のどこであれ、戦争が唯一の紛争解決手段となっている。人々は暴力でしか自分の声を聞いてもらえないと考え始めている。平和は今あるものではなく、かつてあったものになりつつある。時の経過と共に、私たちは平和に暮らすとはどういうことかを忘れつつある。あの夜、祖母はとても冷静であり、その理由をずっと不思議に思っていた。そこで、次の日に理由を聞いてみると、祖母はこう答えた。「私が若い頃はみんな仲良く暮らしていた。人々は話すよりもよく人の話を聞き、世界をより良い場所にするだけを考えていた。でも、時間が経って、人々がより多くを求めると、私たちは駄目になり始めた。今の世代は知識、自由、情報、全てを手に入れたにも

かかわらず、その無限の欲望が人間であることを忘れさせ、そして、人間らしさを失ってしまった。その時、チャンスがあるうちに大切にしていなかった平和が失われるのは、時間の問題だと確信したのよ」

平和は私たちの内から始まる。平和を愛する人は常に平和を促す。私は、世界の一市民として平和を維持することが最大の関心事である社会を作りたいと思っており、いつ、どこでもそれを訴えていくつもりだ。安心して子どもを持つことができる世界、彼らが傷ついたり命を落としたりするのではないかと怯えることのない世界にしていきたい。この世界が、誰もが行きたい場所に行き、生きたいように生きられる、最高に安全な場所になるよう願っている。私は平和な世界に生きる平和的な人間になりたい。私たち自身が心安らかであれば世界も平和になる。だから、平和を大事にしよう。平和になろう。